

ゴスペル参加者の活動に対する意識について

一般的な合唱参加者との比較から

宮崎大学 教育文化学部

学校教育課程 中学校教育コース 音楽専攻

上村 真喜子

1990 年以降、日本において、ゴスペル音楽の認知が広がりはじめ、現在では全国各地にゴスペル・クワイアが存在し、活動しています。本研究では、ゴスペル音楽の歴史や、音楽の特徴を調べ、ゴスペル・クワイアで活動している人々の活動に対する意識について調査し、ゴスペル活動の生涯学習としての意義や学校教育での教材化についての意義を検討します。

ゴスペルは、17 世紀に始まった「奴隷貿易」によって、アフリカからアメリカに連れてこられた黒人によってつくられた音楽です。厳しい労働を押し付けられていた黒人にとって、白人に教え込まれたキリスト教の教えは精神的な支えとなり、秘密の集会を開くなかで、黒人霊歌が誕生しました。これがゴスペルのルーツです。また、この黒人霊歌によって、ブルースやジャズが生み出され、現在のソウルや R&B などのポップスにも影響を与えています。この黒人霊歌は、奴隷解放宣言を経て、白人にも受け入れられるようになり、ゴスペル音楽へと発展していきました。

ゴスペルは一般的な合唱曲とは違う音楽的特徴を持っています。ゴスペルのコード進行は - - の基本的なコード進行からなります。

また、ハーモニーはスリーコードとセヴンス・コードから成ります。つまり、長 3 和音や短 3 和音、属 7 のような単純な和音です。そのため、ゴスペルのコード進行の中ではパターンを覚えてしまえば、簡単に和声部を歌うことができます。

リズムは、2 拍目と 4 拍目にアクセントがおかれ、旋律の中にシンコペーションが多く用いられています。ゴスペルにおいて、リズムにのることはとても重要で、身体をうねらせるように身体反応します。

ゴスペルを歌う上で、発声のこれといった決まりはありません。言うならば、通る声で、主に胸声発声を用います。

歌詞は、キリスト教の教えをもとにつくられており、神に対しての賛美の歌です。また、歌詞の内容は、心を励ますような内容が多く用いられています。

それから、ゴスペルは即興的要素を多く含みます。何回同じ旋律を歌うかは決められておらず、指導者の指示によって、その時々で曲の構成が変わります。ゴスペルの曲の中にはヴァンプと呼ばれる箇所があり、曲の終わりに短い旋律を何度も繰り返し、音楽を盛り上げるといった構成を持ちます。

また、ゴスペルは練習の際、楽譜を用いませぬ。歌詞が書かれたものは用意されますが、メロディーは、指導者の真似をして覚えていきます。

これらの音楽的特徴は、これまで学校教育を中心に行われてきた一般的な合唱曲とは違う部分が多く、活動者の意識もそれぞれ違うのではないかと考えました。ゴスペルと合唱のそれぞれの活動者は、活動によってどんな効果を得、音楽的技術や表現に対する考え方はどう違うのか、アンケート調査によって明らかにしました。

調査対象は 3 つのゴスペル・クワイアの参加者、合計 80 名と、4 つの一般合唱団、合計 73 名に、2007 年 8 月から 11 月に訪問し、アンケート調査を行いました。アンケート項目は、江川七代さんの生涯学習における合唱活動の意義を調査するアン

ケート項目を参考にし、さらに、音楽的意識についての項目を加えました。例えば、「正確な音程に気をつけて歌うことが大切である。」などの質問項目の前文に「ゴスペルまたは合唱を歌う時のあなたの考えに一番近いものを、1つ選び○をつけてください。」という文を付け、評価の順位は、7から「全くそうだ」「かなりそうだ」「ややそうだ」「どちらともいえない」「ややちがう」「かなりちがう」「全くちがう」の7段階評定としました。

因子分析を行った結果、9つの因子を得ることができました。

まず、「精神的充実」因子について0.5以上の高い因子負荷量を持つ質問項目は、「歌っている時、自分の心が満たされる。」「歌っていると気分が高揚していく。」「悩みやストレスを忘れることができる。」「この活動は、身体的健康につながっている。」「この活動は、精神的健康につながっている。」です。これらの高い負荷を持つ質問項目の各回答者の平均値を算出し、これを「精神的充実」因子の項目得点としました。そして、ゴスペルの参加者と合唱の参加者との間で、比較を行いました。「精神的充実」因子では、ゴスペルのほうが、合唱よりも項目得点の平均値は統計的に有意に高くなりました。

「音楽技術」因子について高い負荷を持つ質問項目は、「正確な音程に気をつけて歌うことが大切である。」「感情豊かな表現をするためには、音楽的な技術を身につけることが必要である。」「楽譜を読めることは大切と思う。」「音楽史や、音楽理論の知識は必要だと思う。」です。「音楽技術」因子での結果は、今度は合唱のほうがゴスペルよりも項目得点の平均値が有意に高くなりました。

「技術的課題克服」因子の質問項目は、「技術的課題を発見し、改善しようと努めている。」「ブレスの位置に気を付けて歌っている。」です。「技術的課題克服」因子では、合唱のほうがゴスペルよりも項目得点平均値が有意に高いという結果となりました。

「感情移入」因子の質問項目は、「歌詞の内容によって、励まされることがある。」「技術よりも感情をこめて歌うことが大切である。」です。「感情移入」因子では、今度はゴスペルのほうが項目得点の平均値は有意に高いという結果となりました。

「自己成長」因子の質問項目は、「この活動によって私は、今まで知らなかった新しい自分を発見することがある。」「この活動の中で私は、人間的に成長したと感じる事がある。」です。「自己成長」因子では、ゴスペルのほうが合唱よりも項目得点の平均値は有意に高いという結果でした。

「演奏向上心」因子の質問項目は、「聴いている人を感動させる演奏をしたい。」「この活動のメンバーは、よい競争相手になる。」です。「演奏向上心」因子は、合唱のほうがゴスペルよりも項目得点の平均値は有意に高いという結果となりました。

「音楽的表現」因子、「仲間帰属」因子、「活動依存」因子はゴスペルと合唱では有意差はみられませんでした。

ゴスペルと合唱で有意差の出た、因子の項目得点の平均値をレーダーグラフにすると、このようになります。

ゴスペルは、精神的充実や、感情移入、自己成長、など、精神的な効果を感じている人が多いという結果になっています。その反面、音楽技術や、音楽技術への改善、向上心といった意識が低いことがわかります。ゴスペルは、音楽技術がある、なしをあまり気にすることなく、感情移入して歌うことを重要視していることが、この結果につながったと考えられます。

合唱は、気分の高揚、心の満たし、ストレスを忘れるという意味での精神的効果への意識がゴスペルよりも低く、音楽的達成や向上に対する意識が高いという結果が伺えます。このことは、一般的な合唱活動における充実感、技術的課題克服や、それを通しての達成感と深く関係するものであることを示しています。音楽技術を向上させることによって、活動に対して充実感を得ているのではないかと考えます。

ゴスペル活動は、学校教育や生涯学習において、歌うことに自信のない人や、興味のない人にとって有効ではないかと考えます。それは、ゴスペルは音楽的な技術をあまり問題にしないという特徴を持つからです。また、音楽活動により、心の満たしや、気分の高揚、ストレスの解消などの精神的な効果もあります。

法岡さんの研究によると、学校教育の音楽についていけるのは全体の2割程度であり、大人になっても合唱活動を行っている人たちの多くはさらにその中の2割から排出されているという結果が出ています。

ストレスの高い現代社会において、音楽によって得られる、精神的な効果はますます注目すべき点であると考えます。ゴスペル活動は、自由にのびのびと歌うことができることから、ストレスの解消など、精神的な効果を得られる生涯学習として大変意義深いと考えます。